

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際性を活かした研究教育システムを確立する。	→国際化社会に対応したカリキュラム編成、海外の学会発表数、海外の研究者との共同研究への参加数、海外研修会への参加数。	B	B	B	C	B
2. 博士課程後期課程大学院生の海外における研究活動の活発化を図る。	→本学大学院海外研究助成金制度の申請者数。	B	B	B	B	B
3. 海外からの研究者の受け入、および専任教員の海外派遣を促進する。	→海外からの研究者の受け入れ数、専任教員の海外派遣数。	B	C	B	B	B
4. 外国語を母語とする専任教員を雇用する。	→外国語を母語とする専任教員数。	B	B	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 総合心理学専攻の大学院GP「国際化社会に貢献する心理学実践家の養成」の終了後も、大学院生による外国学会等での研究発表や資料調査、フィールドワークが継続的に実施されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国での研究発表や資料収集、フィールドワークは活発化している。引き続き外国での研究活動について大学院生に奨励する。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 外国での研究活動について大学院生に奨励するとともに、内外の助成金の獲得に努力する。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 外国研究を主とする分野では大学院生のフィールドワークや資料調査が継続的に行われており、総合心理学専攻を中心に海外での学会における大学院生の研究発表も系統的に行われている。総合心理学専攻では英語によるプレゼンテーション能力育成のための独自のプログラムを実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国での研究活動を支援するための本学大学院海外研究助成金制度の2013年度採択者数は、全学で39名に対して文学研究科は7名であった。また、大学院生による外国学会等での研究発表件数は6件に上っている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 海外研究助成金制度の活用をさらに促していくとともに、外国語によるプレゼンテーションの能力育成のためのプログラムを継続する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外でのシンポジウム参加、学会発表はもとより資料収集や野外調査が継続的に行われてきた。協定大学からの外国人教員研究者も広く受け入れてきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 海外からの受け入れ教員数は2012年度から2013年度にかけて1名増加した。他方、本学教員の海外派遣は2012年度から2013年度にかけて5名減少したが2011年度を上回る水準は維持しており、全教員数の半数を超えるという目標も達成している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 海外での諸活動をこれまでと同様に活発に展開する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度以降、外国文学・言語を専攻するすべての領域で専任のネイティブ教員を配置している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ネイティブ教員の配置により、各領域において質の高い言語教育が担保されている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か この状態が継続的に維持されるように人事に際して考慮する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考		<p>なお、正規留学生受入数は2014年度が3名で、2012年度よりも1名増加した。外国人枠での大学院入学試験受験者は一定数いる。研究科が実施している厳格な入試制度を今後も維持し、優秀な留学生を獲得するよう努力したい。</p>	☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学研究科】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	4	4	3	3	2	3	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	1	1	1	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	2.4	2.4	1.9	1.8	1.3	2.1	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	—	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	1	1	0	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.6	0.7	0.0	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	
指標5	海外からの受け入れ教員数		長期	人	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数		長期	人	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)